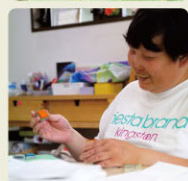


ってどんなところ？

アール・ド・ヴィーヴルは、1990年から始まった
県西地区に住むダウン症児と親のための会「ひ
よこの会」での活動をきっかけにスタートし、
2013年すべての障がいのある人たちの表現活動
の場を提供するNPO法人を設立。障がい者の
アート活動に多く携わってきたアートディレクター
中津川浩章氏との出会いから始まったアート
ワークショップ他、多様なワークショップの定期
開催、障がいを知るための学習会、講演会、シン
ポジウム、映画上映会や様々なイベントを企画。
2016年、障がいのある人たちが自分らしく生きる
素晴らしさに気付く場として就労継続支援B型
事業所を開所しました。

「エイブルアートアワード2015」において「小さな
アトリエ支援の部門」受賞。



施設概要

- 施設名称 ● アール・ド・ヴィーヴル
- 施設種別 ● 就労継続支援B型
- 施設長 ● 萩原美由紀
- 定員 ● 20名
- 設立 ● 2016年4月
- 昼食 ● 昼食は各自ご準備ください。
- 施設併用 ● 生活介護施設に通われている方もご利用いただけます。

NPO法人 アール・ド・ヴィーヴル

〒250-0055 小田原市久野906アネシスヒルズ102
TEL・FAX: 0465-25-4534
mail: info@artdevivre-odawara.jp
URL: http://artdevivre-odawara.jp/



Access

- 小田原駅西口 2番バスのりば
久野 兎河原循環 柿木田下車徒歩4分
- 小田原駅東口 2番バスのりば
諏訪ノ原フラワーガーデン行き 中宿下車徒歩2分

art de vivre

アール・ド・ヴィーヴル

art de vivre

仕事

それぞれが得意なことを仕事に

絵画・クラフト・織り・農作業など、さまざまな
活動を通して自分のやりたいことを見つけ、自分
のペースで取り組みます。

また作品を商品化するための作業や展示販売、
配達にも関わり、仕事の対価を受け取ります。

社会

商品のお届けや設置作業などの仕事を通して、
地域と積極的に関わります。

障がいを持つ人への理解を深め、
仲間としてともに生きる社会を目指します。

自立

生活する力を高める

仕事の準備や片付け、掃除など、事業所での
日常生活も手分けして行います。

また近隣への買い物など「自分で生活する
ための力」をそれぞれのペースで高めていま
ます。

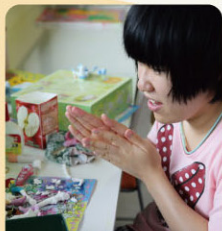
アール・ド・ヴィーヴルでは、障がいのある人ひとりひとりの個性が光る仕事を生みだし、社会へ繋げる働きかけを行っています。仕事の範囲は、作品をモチーフとしたグッズ制作や販売、作品リースの配達、農作業など多岐にわたり、それぞれが自分の得意なことを受け持っています。来客があればお茶を出し、出来上がった商品のお届けもメンバーが行えるよう、スタッフがサポートしています。ランチタイムには、みんなでテーブルを囲み、片付けはみんなで行います。わたしたちの願いは、自分を肯定され自分らしくいられる場所で、メンバーが心の底からがんばれる勇気を身につけ、自信を持って仕事に取り組めるようになることです。仕事の楽しさや、社会とつながり自立して生きる喜びを、家族や周りの方々と共有してほしいと願っています。

Start
10:00-

メンバーが
アールに
やってくる!



絵を描く



立体作品を作る

さまざまな 仕事



グッズ制作



販売の準備



織物を織る



ブルーベリー園のお手入れ



グッズ



リース作品の設置



商品の配達

Lunch
12:00-

みんなで
お昼ご飯



お昼の様子

自立

生活する力を高める



グッズの販売



作品リース

午後の仕事



みんなで掃除

社会



とつながる



展覧会

Goes home

15:00-

また明日!



NPO法人アール・ド・ヴィーヴル 理事長
萩原美由紀

就労継続支援B型事業所「アール・ド・ヴィーヴル」は、障がいのある人たちが自分らしく生きることを願い、生きがいをもって仕事に取り組むための場として2016年4月に誕生しました。

人はそれぞれ好きな事やこだわりや独自の得意なものがあります。

そのひとり一人の個性が発揮できる場を提供し、じっくりと向き合います。そして生まれた作品を社会へ「仕事」として繋ぎます。

障がいがあるなしにかかわらず、すべての人がその人らしく心豊かに暮らせるインクルーシブな未来をアール・ド・ヴィーヴルのメンバーたちと一緒に描いていきましょう。

NPO法人アール・ド・ヴィーヴル アートディレクター
中津川浩章

障がいがある人にとって表現活動・アートはどんな意味があるのでしょうか。

うまい下手や写実性といった表面的な価値観だけでアートは成り立ってはいません。うまさや綺麗さや関係なく画面全体から受けるエネルギー、オリジナリティや非凡な集中力、大胆な構図や生き生きとした色彩や繊細な線、ときに逡巡し、迷い、戸惑うことのリアリティ…絵に大切な要素は他にもたくさんあるのです。

ひとは障がいがあってもなくても、一人一人みな違う存在です。作品にはその人がストレートに現れます。独特な価値観や感覚、言葉では言い表すことのできない大切なもの、隠すことのできない率直なおもい、表現することによって初めて見えてくる切実な「何か」。

その人の奥底に息づいている個人的感覚が作品となって外に出ることで、自身の内側に大きな変化が起こるかもしれません。人は作品を通して自分を知り、他者とそして社会と繋がることのできるのです。